

水木しげる氏

表紙絵

＝たまにはゆっくり休もうや＝

表紙絵：水木しげる

- ・ 特集 分館の魅力紹介 2～7
調布市の分館について
富士見分館がリニューアルしました
ここを見てほしい！
こんなこともしています
- ・ 郷土の歴史と伝承 8

特集 分館の魅力紹介！ —分館のこと、知っていますか—

調布市の分館について



調布市立図書館公式キャラクター
じろ

皆さんは調布市の図書館をいくつ利用されたことがありますか。市内には、中央図書館と10の分館があります。今回は、施設や地域の特色など、各分館の魅力的な情報をご紹介します。いつも通っている館の意外な秘密や、近くに行ったら思わず立ち寄りてみたくなるような分館が見つかるかもしれません。

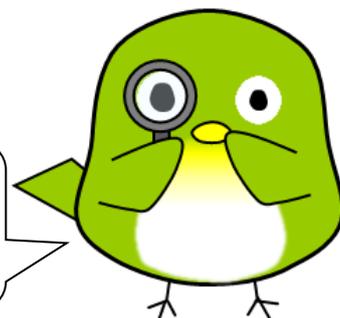
調布市の分館設置 3つの原則

1. 人口2万人に1館
2. 半径800メートルに1館
3. 2つの小学校区に1館

「いつでも どこでも だれでも」
利用できるように
考えられています！



資料についているバーコード、実は各館で色が違います。次ページから、各館のバーコードの色にちなんだものを
持ったじろが登場します！何を持っているかな？





国領分館

住所 〒182-0022

調布市国領町 3-12-1

TEL 042-484-2000



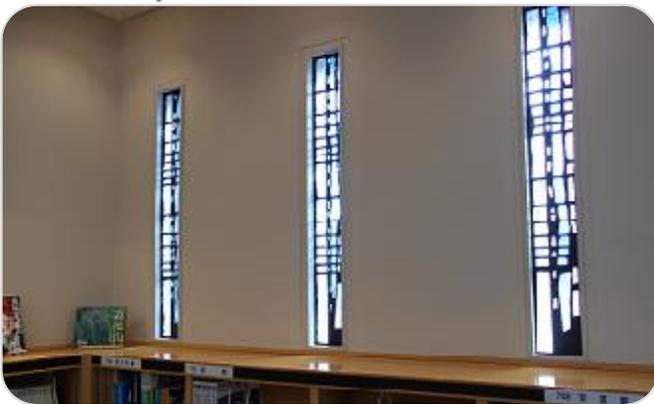
国領分館は、分館の中で一番駅から近くにありますが。国領地域に関する資料は、本の背に「国領地域の本」シールを貼り、まとめて並べています。気軽にお立ち寄りください。



調和分館

住所 〒182-0006 調布市西つつじヶ丘 4-22-6

TEL 042-485-2000



館内の奥に、ヨーロッパ製のステンドグラス「野川のせせらぎ」があります。調和小学校と地域開放プールに併設していて、多くの方が訪れる分館です。



深大寺分館

住所 〒182-0011 調布市深大寺北町 5-17-3

TEL 042-485-3350



一番新しく、座席がゆったりしています。天気のいい日に外でも読書ができる、テラス席が魅力的です。自然の中でゆっくりと読書を楽しめる図書館です。



神代分館

住所 〒182-0006 調布市西つつじヶ丘 1-40-5

TEL 042-485-0054



市内で唯一、「毎週」0・1・2歳児向けのおはなし会を行っています。館内は季節にあわせて掲示をし、居心地のよい空間作りを目指しています。



宮の下分館

住所 〒182-0035 調布市上石原 3-34-10

TEL 042-486-5798



季節に合わせて着替えるじろがいます。おしゃれなじろにご注目ください。近隣の中学生が多く来館するため、中高生におすすめの本をあつめた常設の展示を行っています。



緑ヶ丘分館

住所 〒182-0001 調布市緑ヶ丘 2-25

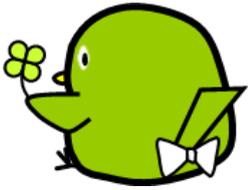
TEL 03-3300-7672



緑ヶ丘団地の中にあり、隣接する三鷹市や世田谷区（一部地域）の方にもご利用いただいています。

おはなし室ではいつでもお子さまと一緒に本を読むことができます。





若葉分館

住所 〒182-0003 調布市若葉町 3-16-13

TEL 03-3309-3411



分館唯一の2階建て単独館です。本を運ぶための作業用エレベーターがあります。毎年夏には、玄関脇にネットを張ってゴーヤ等を育てる“緑のカーテン”がお出迎えします。



染地分館

住所 〒182-0023 調布市染地 3-3-1

TEL 042-488-8393



一般室には一人掛けの椅子があります。座席前の細長い窓から光が差し込む特等席です。柔らかな光の中、ゆったりと落ちついて読書を楽しむことができます。



佐須分館

住所 〒182-0016 調布市佐須町 4-42-2

TEL 042-485-1306



分館の中で最も広く、文学の本を中心に5万冊を収容する書庫があります。カウンターで依頼していただくと、電動式の書架の中から、希望の本をすぐにご用意いたします。



富士見分館

住所 〒182-0033

調布市富士見町 2-3-26

TEL 042-481-7664



平成28年度は分館の中で一番多く展示を行いました。来館する度に新しい展示が見られるかもしれません。今年、電気設備等の工事を行いました。詳しくは次の記事をご覧ください。

★ 富士見分館がリニューアルしました ★

外壁と電気の工事のため2カ月近く休館し、7月21日から開館しました。休館中はご不便をおかけいたしました。ご理解・ご協力、ありがとうございました。



外階段に滑り止めが
つきました。

富士見分館 ここが変わりました！

- ① LED 照明になって館内が明るくなりました！
- ② 階段がきれいになりました
- ③ トイレに人感センサーがつけました
- ④ 外壁がきれいになりました
- ⑤ 展示スペースに
スポットライトがつけました
- ⑥ 集会室がきれいになりました

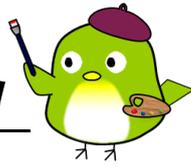


来館お待ち
しています！



明るくなった
館内に驚かれる
方も多いです。

ここを見てほしい!



図書館では、季節や時事に沿った本を集めた展示を行っています。テーマの設定、資料の収集、装飾等を各館の職員が手がけています。利用者の方々に新たな本と出会っていただけるよう、知恵を絞ったオリジナルです。ご来館の際は、ぜひ展示にご注目ください!



▲南の島へ卓上旅行



▲春がきた



▲子どもの貧困



▲もしも、魔法がつかえたら

こんなこともしています

資料の貸出しのほかにも、分館ではこんなことをしています。



- ・地域を知る地図の作成（公共施設、他分館、自動販売機など）
- ・本についての相談、レファレンス
- ・市内の小学3年生向け図書館ガイダンス
- ・草木の手入れ
- ・職場体験の受入れ

お掃除は毎朝
しています。



利用者の方々に、安心かつ快適にご利用いただけるよう、日々努力しています。

お気づきの点がございましたら、いつでもお知らせください。



馬車の活躍した時代

関 口 宣 明

京王線が大正2年(1913)に調布・笹塚間で開通するまでは、都市と近郊農村を結ぶ交通機関として馬車が活躍していました。近代的な交通のさきがけともいえる馬車は、調布にどのような変化をもたらしたのでしょうか。

1. 調布の乗合馬車

明治28年(1895)から、個人営業の乗合馬車が調布から新宿の角筈新町まで、甲州街道を走っていました。乗合馬車の種類には、馬二頭牽き10人乗りと、馬一頭牽き6人乗りとがありました。終点までは、およそ2時間かかり、1日4往復していました。

烏山に住む古老の話では、乗合馬車は、道行く人に注意をうながすために、お豆腐屋さんのラッパのようなものを吹き鳴らして走っていたそうです。

この馬車の利用客の中に、当時まだ目新しかった活動写真(映画)を調布にもたらした人達がありました。明治37年(1904)のことです。当時の布田郵便局(今の布田1丁目26番地にありました。)で電信開通祝賀会が盛大に催されました。そのときには、銀座の広目屋本店という広告事業者が馬車に乗って来て、調布で初めて、活動写真が上映されました。そのときの活動写真の内容がどのようなものだったかは残念ながらわかりません。

しかし、広目屋は、最初の日本映画と考えられている『芸者の手踊り』をはじめ、『お兼さらし(布さらし)』などの踊りを題材とした活動写真を製作して、各地で興行していましたので、この祝賀会でも、携帯用の映写機と鳴り物を演奏する人達を伴って、このような活動写真が公開されたことでしょう。

2. 調布の荷馬車

明治末期から大正期にかけては、荷馬車も活躍しました。農家の人副業として、大きな馬と荷車を使って、商店などから頼まれた

荷物を運んでいました。このような運送の仕事をする人は「馬力」と呼ばれ、調布の各村に2, 3人はいたといえます。

荷馬車にはおよそ1トンもの重さの荷物が積みました。運搬したものには、米俵、酒樽をはじめ、養蚕農家でとれた繭やスイカなどの農産物がありました。繭は、甲武鉄道の境駅(現在の中央線・武蔵境駅)まで荷馬車に積んで行って、長野方面の製糸会社に運ばれ、スイカは神田の市場まで、およそ往復40キロメートルを日帰りを出荷されました。反対に愛知県からは、水瓶などの陶器や農機具が境駅に到着し、荷馬車で調布に運ばれました。

このように、乗合馬車や荷馬車は、人や物の交流をとおして、まだ農村だった明治時代の調布に、都市の新しい文化をもたらし、大正時代になっても地域の産業を支えてきました。

[参考文献]

○原 育夫「馬車できた活動写真」『調布こぼれ話』(昭和54年)所収

○『烏山-甲州街道間の宿の民俗』(昭和56年)

○早稲田大学坪内博士記念演劇博物館企画展図録『ニッポンの映像-写し絵・活動写真・弁士-展』(2008年)

刊行物番号

2017-122

図書館だより 第245号

平成29年9月25日発行 [市内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

TEL 042-441-6181

<http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>